

現代中国語における助動詞“会”と“能”の意味分析 — 一般的な能力を表す場合を中心に —

片桐 光知子

0. はじめに

本稿では、中国語における可能を表す助動詞“会”と“能”について、両者が一般的な能力を表す場合にどのような使い分けが存在するのかを分析する。

これまでの研究では一般的な能力を表す場合の“会”と“能”の使い分けにおいては“会”が初歩、“能”が高度というレベル差があると指摘されてきた²。

相原 1997:28 では「『酒をたしなむ』『タバコを吸う』ことが“会”で表されることはよく知られている」と指摘され、以下の例文が挙げられている。

- (1) 你会喝酒吗？（あなたは酒が飲めますか？）（相原 1997:28 下線は筆者による）
- (2) 你会抽烟吗？（あなたはタバコが吸えますか？）（相原 1997:28 下線は筆者による）

相原 1997:29 では「これらは自然と大人になるにつれて習得したこと」であり、「中国人にとって、酒やタバコは一般的男性であれば、当然たしなむもの」と述べられている。さらにそのうえにたって“白酒”や“白兰地”などのアルコール度数の高いものに対しては“会”を用いることはできず、“能”を用いると述べられている。

- (3) 你能喝白酒吗？（あなたは白酒が飲めますか？）（*会）（相原 1997:29 下線、（*会）は筆者による）
- (4) 你能抽中国烟吗？（あなたは中国タバコが吸えますか？）（*会）（相原 1997:29 下線、（*会）は筆者による）

相原 1997:28 では(3)、(4)を例とし、「到達度が問われる」ときに“能”を用いると指摘されているが、「水泳ができる」、「バタフライができるか」など

には“会”を用いると述べられており、「マーボ豆腐ができるか」というときなど様々な料理名を列挙するときにも一般的には“会”を用いると述べられている。なぜこのような事柄には“会”を用い、(3)、(4)では“能”を用いるのかについても説明がほしいところである。本稿では中国人の認識という観点からこれらの問題について分析を試みたい。

1. 程度副詞と共起する場合

程度副詞と共起する場合の“会”について、许和平 1992 では“技巧”を表すと指摘されており、史有为 1994 では“善于”を表すと指摘されており、相原 1997 では「技能、テクニック、コツを強調」と指摘されている。一方、程度副詞と共起する場合の“能”が往々にして“数量”的概念を含意するということはすでに朱德熙 1982、黄麗華 1988、1995、许和平 1992、史有为 1994、相原 1991、1997 等で指摘されている。現代汉语八百词 1999 : 54 では、“‘能’表示善于做某事，前面可以加‘很’”と述べられており、これに対し黄麗華 1995 では以下のような指摘がなされている。

- (5) 张三很能买东西，见什么买什么。（張三は非常によく買物をし、見たものは何でも買ってしまう。）（黄麗華 1995 : 80）

(5)では張三が上手に買い物をするという意味は全く含まれていない。黄麗華 1995 : 80 ではこれについて「『張三が買い物をする』行為が量的に『高いレベル』に達していることを意味する」と述べられている。現代汉语八百词 1999 では“能”が上手に行うという意味を表すことに関し、以下のような例を挙げている。

- (6) 我们三个人里，数他最能写。（私達三人の中では彼が一番たくさん書いている。）
 (7) 这个人真是能说会道。（この人は本当に弁が立つ。）
 (8) 他很能团结周围的人。（彼は周囲の人とよく団結する。）

((6)~(8) 現代汉语八百词 1999 : 54 下線、訳は筆者による)

(7)は“会”と共起しているため話がうまいという意味を表すと考えられる。仮りにもし“能说”だけならば、“能吃”、“能喝”、“能玩”などのように

数量や頻度が高いことを表すこととなる。以下に例を示す。

- (9) 她很能说。一说起来，就没完没了。（彼女はよくしゃべる。一度しゃべり出したら止まらない。）（*会）³
- (10) 他很会说话，能把稻草说成金条，把死人说成活人。（彼はとても話上手だ、稲わらを金の延べ棒のように、死人を生きている人のように話す。）（*能）

(9)には話し上手という意味はない。ただ話が長い、よくしゃべるということの意味しているだけである。(10)は話が上手であるという意味を表し、このように高度な話す能力を表す場合、“能”を用いることはできない。

上述例(6)には“三个人里”という限定があるが、条件可能には“能”しか用いることができないため、ここでは“能”を用いて表す。すでに広く知られている言語事実ではあるが、“能”は①能力可能 ②条件可能 ③結果可能を含意しており、“会”はこのうちの②と③の意味を表すことはない⁴。ここでは条件可能の意で使われているため“会”を用いることはできない。(6)は仮にもし“三个人里”という限定がなければ、“他最会写”と言うことが可能である。さらに、(8)は“会”と言い換えることができるが、“会”を用いた場合には“能”を用いた場合より団結することがうまいという技術的に高度な能力を表す傾向にあり、“能”を用いた場合にはその頻度の高さを表す傾向にある。

また、一般的に以下のような心理的な事柄を表すような場合に助動詞を用いることは極めて少ない。まず、本文中で用いる心理的な事柄を以下のように定義しておく。

心理的な事柄： 人の感情、すなわち、心理状態。

- (11) 我总担心这头小牛养不大（*不能养大）。（この子牛は大きく育たないのではないかといつも心配している。）（張威 1998:46）
- (12) 每天却要看到他的冷眼，我实在挨不下去（*不能挨下去）了。（毎日彼の冷たい視線を受け、私は本当に耐えられなくなっている。）

可能を表す助動詞を用いて心理的な事柄を表す例としては、以下のような可能性⁵或いは蓋然性を表す場合が極めて多い。

- (13) 你这样做妈妈会生气的。（こんなふうにするとお母さんに怒られる

でしょう。)

- (14) 给他买这个礼物，他能高兴吗？（彼にこの贈り物を買ったけれど、彼は喜ぶだろうか。）

助動詞を用いた場合(13)、(14)のように可能性、蓋然性を表す場合がほとんどであり、したがって、心理的な事柄を表す場合の助動詞についてはこれまで触れられてこなかった。しかしながら、助動詞を用いて心理的な事柄を表す以下のような可能表現も存在する。

- (15) 你真会笑，羡慕死了！我也想像你那样笑。（あなたは本当に笑うのが上手でうらやましい！私もあなたみたいに笑えるようになりたい。）（*能）
- (16) 他真能笑，一笑起来就没完没了。（彼は本当によく笑う。一度笑い出すと止まらない。）（*会）
- (17) 她一生气孩子们就乖乖地听话了。她真会生气，我应该好好向她学习。（彼女が怒ると子供たちはすぐおとなしく言うことを聞いた。彼女は本当に怒るのがうまい。私も彼女を見習わなくては。）（*能）
- (18) 他还是很能生气。大家讨厌他。（彼はやっぱりとてもよく怒る。みんな彼のことを嫌っている。）（*会）

以上の(15)～(18)の例では、“会”を“能”に、“能”を“会”に言い換えることができない。(15)は「彼女が笑う様がきれいである」ことを表し、(16)は「彼がよく笑う」ことを表すが、ここで(15)の“会”は「笑い方」に着目しており、(16)の“能”は「笑う頻度」に着目していると言えよう。

(17)は「怒ることが上手である」ことを表し、(18)は「怒りっぽい」ことを表す。(18)は、どう怒るのかは考えず、ただ怒るという動作のみを具体化している。これに対し(17)は「怒り方」が上手という意味であるが、「笑い方」の時のようにどう怒ったら自分がよく見えるのかということを考えているわけではない。「怒り方」がうまいとは、怒るべき時に怒り、怒るべきでない時にはじっと我慢して怒らないことである。換言すれば、相手や状況に合わせ、臨機応変にうまく怒れるということを表す。

以上の考察から、程度副詞と共起する場合、“能”は「量」的高度さを表し、

“会”は「質」的高度さを表すのではないかと考えられる。以下では、さらに詳細に両者のプロトタイプの意味について分析する。

2. “会”と“能”のプロトタイプの意味

刘月华 2003:184 では“‘会’表示学习而后能。不需要学的，只能用‘能’，不能用‘会’”と述べられており、荒川 1986、2003、相原 1991、1997 でも“会”は「学習によってできる」ようになることに用いられると述べられている。

- (19) 小孩儿会走(路)了。(子供は歩けるようになった。)(荒川 1986:6 下線は筆者による)
- (20) 孩子会说话了。(子供は話せるようになった。)(相原 1997:16 下線、訳は筆者による)

以上の刘月华 2003、荒川 1986、2003、相原 1991、1997 の共通点は“会”が学習によってできるようになることであるという点であるが、

- (21) 老鼠生来会打洞。(ネズミは生まれながらにして穴を掘ることができる。)(黄麗華 1988:58)
- (22) 鸭子会浮水。(アヒルは水に浮くことができる。)(许和平 1992:83 下線、訳は筆者による)
- (23) 人是会思考的动物。(人間は考える動物である。)(相原 1997:17 下線は筆者による)

すでに複数の研究者によって指摘されてきたように、(21)~(23)はすべて動物や人間の本能を表しており、特に学ぶ必要などない。一方、以下のように学ぶ必要のある事柄に対し“能”を用いることは可能である。

- (24) 他能说二十多个国家的语言。(彼は20カ国以上の言語が話せる。)
- (25) 他能看中文报。(彼は中国語の新聞が読める。)
- (26) 我学过打字，我能打字。(私はタイプライターを打つことを学び、タイプライターが打てる。)(渡辺 1999:477 下線、訳は筆者による)

(24)~(26)はすべて学んでできるようになることであるが、そのようなことに対して“能”が用いられている。したがって、“会”と“能”の違いは学ぶか

学ばないかではない。

さらに相原 1997:16 では「“会”は決して『技能を理想的にマスターする』ではなく、とりあえず最低のレベルがクリアできればよいのである」と述べられている。だが、以下に挙げる例は、最低のレベルであるとは考えづらい。

(27) 她会双板平行转弯。(彼女はパラレルができる。)

(28) 他会画草图。(彼はデッサンができる。)

スキーの中でかなり高度な技術を有するとされるパラレル、誰しもができるとは限らないと思われるデッサンなどもみな“会”で表されるのが一般的である。以下の例を見てみよう。

(29) 他会听话，我刚说了声“好冷啊”，他就把窗户关上了。(彼は言外のことがわかる、私が寒いなあと言うとすぐ窓を閉めてくれた。)(*能)

(30) 您父亲这个人很有生活经验，他会看人，您却没有经验。(あなたのお父様はとても生活経験がおありになって、人を見る目があるのにあなたには経験がありません。)(*能)

(29)は「私」が「寒いなあ」と言っただけで「窓を閉めてほしい」とは言っていないにもかかわらず、気を利かせてすぐ窓を閉めてくれたということを表している。このように、相手が言いたいことを理解することができるという場合、“会”を用いて表す。(30)の“他会看人”は、「人を見ることができる」という当たり前な意味ではなく、「どんな人か、よい人か、悪い人か見分けることができる」という意味で用いられている。これら(29)、(30)は質的に高度な能力を表しているので、“会”を用いた場合最低水準をクリアできればよいと断言することはできない。渡辺 1999:478 では、“很”と共起する場合の例をあげ、“当习性或日常行为上升为特殊技巧时，一般用‘会’不用‘能’。”と指摘されている。

(31)a 他很会做生意。 / b *他很能做生意。(彼は商売上手だ。)

(32)a 她很会过日子。 / b *她很能过日子。(彼女は家事の切り盛りがうまい。)(渡辺 1999:478 下線、訳は筆者による)

筆者は(31)、(32)のような例以外に、(29)、(30)のように程度副詞と共起しない場合であっても、とりたててその属性を描写する場合には“能”を用いることはできず、“会”を用いると考える。ここで本稿で用いる「属性」を以下のよう

属性：人、或いは動物が備え持つ特徴、性質。

また、現代汉语八百词 1999:415 では“初次学会某种动作或技术，可以用‘能’也可以用‘会’，但以用‘会’为常。”と指摘されている。

(33) 以前他不会游泳，经过训练，现在会(能)了。(以前彼は泳げなかったが、練習して泳げるようになった。)(現代汉语八百词 1999:415)

(33)は「彼」が「泳ぐ」という特徴、性質を有したということを表しており、上述例(27)、(28)の“她会双板平行转弯”、“他会画草图”などはそのような特徴、性質を持っているということを表すため、一般的には“会”を用いて表すのではないかと考えられる。

これまでの考察から、(34)のような動物の本能を表す例で“能”を用いることができない要因が明らかとなる。

(34) 老鼠生来会打洞。(黄麗華 1988:58) ((21)を再掲)

“会”は学ぶか学ばないかではなく、「特徴」、「性質」を表すのである。

以下では、“能”に焦点を当て考察を進める。まず、統語的な観点から例を挙げる。

(35)a 他会说英语。/ b 他能说英语。(彼は英語を話すことができる。)

(36)a 他会英语。/ b *他能英语。(彼は英語ができる。)

(35)において a と b はどちらも成立するが、(36)においては a は成立するが b は成立しない。ここから明らかなことは、“能”が必ず動詞を必要とすることである。さらに、以下の例では“会”を用いることができない。

(37) 他能流利地说汉语>(*会)(彼は流暢に中国語を話すことができる。)

(38) 他一小时能打 2000 字>(*会)(彼は1時間に2000字打つことができる。)(许和平 1992:83 下線、訳は筆者による)

宮本 1999 では可能性を表す場合の“能”について“能”の基本的な意味は「実現」であると指摘されているが、筆者は可能を表す場合であっても“能”は「実現」を表すと考える。“能”は動作の実現を問題にしているが故に、(38)のようにどの程度達成されるのか、(37)のようにどのように具現されるのかという具体的な動作の実現を表すことが可能なのである。さらに例を挙げる。

(39) 这件事现在还不能讲。(このことは今はまだ言えない。)(*会)

(40) 一连几天几夜不睡觉,能不能坚持?(続けざま何日も寝ずに耐えられるだろうか。)(*会)

(41) 你能袖手旁观吗?(あなたは何もしないでただ見ていることができますか?)(*会)(荒川 2003:184 下線、(*会)は筆者による)

(39)~(41)はもともと動作の実現を問題にしており、そこに状況上、道理上というある種の条件が付け加えられてもその動作が可能か否かを問題としている。先行研究において“能”が身体能力を表すということはすでに藤堂 1979、许和平 1992、相原 1997 で指摘されてきた。たとえば、“睡, 举手, 生(孩子)”等の動詞フレーズには一般的に“能”しか用いることができない。このことから動作の実現に着目していることがうかがえる。

また、渡辺 1999:479 では“‘会’表示能耐不大或不好的习性时,前面可以带‘只’或‘就’。‘能’前面带‘只,就’时,大多表示可能性。”と述べられており、以下の例が挙げられている。

(42) 就会捣乱。(騒動を起こすことができるだけだ。)

(43) 他呀,只会喝茶闲聊,别的就不会。/*他呀,只能喝茶闲聊,别的就不会。(彼という人は、ただお茶を飲んで雑談することができるだけで、他のことはできない。)((42)(43) 渡辺 1999:478 下線、訳は筆者による)

(42)、(43)は「属性」に着目しているのもあって、動作の実現に着目しているのではない。したがって、このような場合“能”を用いることはできず、“会”を用いて表す。

(44) 只能望洋兴叹。(ただ自分の能力のなさを嘆くだけだろう。)

- (45) 只能碍人手脚。(ただ足手まといになるだけだろう。) ((44)(45) 渡辺 1999:482 下線、訳は筆者による)

一方、(44)、(45)では「動作の実現」に着目しており、そのものの属性を問題にしているわけではない。したがって、可能を表すことはなく、その動作がおこなえるか否かという動作の実現の可否、すなわち可能性を表すことになる。

以上のような分析から、“会”のプロトタイプの意味は「属性」であり、“能”のプロトタイプの意味は「動作の実現」であると考えられる。すでに前節において程度副詞と共起する場合の“会”は「質」を表し、“能”は「量」を表すと述べたが、“会”はもともと「属性」を表すため、程度副詞と共起する場合にはその性質がさらに高度であるという「質」の高さを強調することになり、“能”はもともと「動作の実現」を表すため、程度副詞と共起する場合にはさらに数量的に高度に実現させるという「数量」概念と結びつくことになる。

3. “能”と“会”の使い分け

相原 1997:28 では「『酒をたしなむ』『タバコを吸う』ことが“会”で表されることはよく知られている」と指摘されている。

- (46) 你会喝酒吗？(あなたは酒が飲めますか？) (相原 1997:28 下線は筆者による) ((1)を再掲)

- (47) 你会抽烟吗？(あなたはタバコが吸えますか？) (相原 1997:28 下線は筆者による) ((2)を再掲)

相原 1997:29 では「これらは自然と大人になるにつれて習得したこと」であり、「中国人にとって、酒やタバコは一般的男性であれば、当然たしなむもの」と述べられている。さらにそのうえにたって“白酒”や“白兰地”などのアルコール度数の高いものに対しては“会”を用いることはできず、“能”を用いると述べられている。

- (48) 你能喝白酒吗？(あなたは白酒が飲めますか？) (*会) (相原 1997:29 下線、(*会)は筆者による) ((3)を再掲)

- (49) 你能抽中国烟吗？(あなたは中国タバコが吸えますか？) (*会) (相原 1997:29 下線、(*会)は筆者による) ((4)を再掲)

相原 1997:28 では(48)、(49)を例とし、「到達度が問われる」ときに“能”を用いると指摘されているが、これに当てはまらない例としては、「水泳ができる」、「バタフライができるか」などに“会”を用いると述べられており、「マーボ豆腐ができるか」というときなど様々な料理名を列挙するときにも一般的には“会”を用いると述べられている。なぜそのような事柄には“会”を用いるのかということに対し、以下で補足したい。

まず、“会”は「無→有」、すなわち、「0→1」の状態を表し、“能”は「有→有」、すなわち、「1→到達度」を表すととらえてみる。水泳ができる、或いは各種料理が作れるということは中国語母語話者にとって「0→1」ととらえられる事柄であり、これに対し、アルコール度数、タバコの度数などは序列化されているものであり、「1→到達度」を表す“能”を用いる。

- (50) 你能喝啤酒吗? (あなたはビールが飲めますか?) (*会) (相原 1991:32 (*会)、下線は筆者による)
- (51) 你能抽七星吗? (あなたはセブンスターが吸えますか?) (*会)
- (52) 我能游泳5米。(私は5メートル泳げる。) (*会)
- (53) 他能看中文报。(彼は中国語の新聞を読むことができる。) (*会)
((25)を再掲)
- (54) 他能看中文的拼音。(彼は中国語のピンインが読める。) (*会)
- (55) 今天能勉强凑合。(今日なんとか間に合います。) (*会)
- (56) 我能好歹保住一条命。(なんとか命だけはとりとめた。) (*会)

(48)、(49)のような「白酒」や「中国タバコ」でなくとも(50)、(51)の「ビール」や「セブンスター」でも“能”で表されるという事実は、決して度の強いものに限定されているわけではないということを表している。また、(52)も「5メートル泳げる」のように長く泳げなくとも成立する。

これまで日本では一般的に“能”は「能力」を表し、“会”は「技能」を表すとされ、“能”のレベルは“会”より高いとされてきた。このため、(53)で用いられている“能”は能力が高いことを表すと認識されてきたきらいがあるが、レベルが高いと考えられる“中文报”以外にも(54)の“拼音”でも“能”を用いる。拼音など初級で習うことであるが、中国語学習の過程において拼音

が読めるという「1→到達度」が問題にされているため、“能”を用いて表す。これは聊か数量の序列化とは考えにくい事柄ではあるが、ここでもやはり「1→到達度」という序列化の概念がはたらいているといえる。拼音から新聞までレベルに差があるように、ビールから白酒までアルコール度数にも違いがある。もともと「読める」ことや「飲める」ことを前提とし、前節で触れたようにどの程度できるかという「動作の実現」を問題としている。(55)、(56)も同様に、どのように「間に合う」のか、どのように「一命をとりとめた」のかを問題としており、どう具現化するのかという「動作の実現」に着眼していると考えられる。

4. おわりに

本稿では、中国語における可能を表す助動詞“会”と“能”について、両者が一般的な能力を表す場合にどのような使い分けが存在するのかを分析した。

“会”は「属性」を表すため程度副詞と共起した場合その性質がさらに高度であるという「質」を表すことになり、“能”は「動作の実現」を表すため程度副詞と共起した場合どの程度その動作ができるのかという数量概念と結びつき「量」を表すことになる。

また、数量表現と共起しない場合であっても序列化の概念でとらえられる事柄に関しては“会”を用いることはできず、“能”を用いて表す(例：你能喝白酒吗？你能喝啤酒吗？)。

※出典がない例は作例であるが、全てネイティブチェックを受けてある。

註

- 1 荒川 2003 では、可能を表す場合の“能”について能力可能、条件可能、許可可能、習得可能の四類に分類されているが、条件可能、許可可能には“会”を用いることはできない。したがって、使い分け上の難点となるのは能力可能と習得可能に関してである。筆者が本稿で用いる一般的な能力とは、荒川 2003 における能力可能、習得可能を指す。
- 2 相原ほか 1987 : 131、相原 1997 を参照されたい。
- 3 本稿では「*」はその表現が不成立、「？」は不適切であることを表すものとする。
- 4 “能”については魯晓琨 2001. 2.3 を参照されたい。本稿で筆者が用いる「①能力可能②条件可能③結果可能」は張威 1998 : 72 に基づく。
- 5 可能性については讚井 1996、相原 1997、宮本 1999、许和平 1992 を参照されたい。

6 相原ほか 1987 : 129 を参照されたい。

主要参考文献

- 相原茂ほか 1987. 『中国語入門 Q&A101』 pp.129～132 大修館書店
- 相原茂 1991. 「能・会・可以」 『中国語』 1月号 内山書店
- 1997. 『謎解き中国語文法』 講談社現代新書
- 荒川清秀 1986. 「文における主体的な要素—能願動詞」 『中国語』 3月号 大修館書店
- 2003. 『一步すすんだ中国語文法』 大修館書店
- 大河内康憲 1980. 「中国語の可能表現」 『日本語教育』 41号
- 黄麗華 1988. 「日本語・中国語における可能表現—可能文の意味を中心に—」 東京都立大学大学院修士論文
- 1995. 「中国語可能表現の“能”、“可以”、“会”」 『日本語研究』 東京都立大学国語学研究室
- 讚井唯允 1996. 「動詞（能、会、可以）」 『中国語』 10月号 内山書店
- 張威 1998. 『日本語研究叢書 結果可能表現の研究 日本語・中国語対照研究の立場から』 くろしお出版
- 藤堂明保 1979. 「中国語概論」 大修館書店
- 宮本厚子 1999. 「現代中国語の助動詞「能」」 『言語・地域文化・研究』 東京外国語大学大学院
- 渡边麗玲 1999. 助動詞“能”与“会”的句法语义分析——以表示能力和可能为中心 《现代中国语研究论集》 中国书店
- 刘月华 2003. 《实用现代汉语语法》 商务印书馆
- 鲁晓琨 2001. 助動詞“能”的语义构成及其肯否不对称现象 《现代中国语研究》（总3期）朋友书店
- 现代汉语八百词 1999. 商务印书馆
- 许和平 1992. 试论“会”的语义与句法特征 《汉语研究》第三集、南开大学出版社
- 史有为 1994. 得说“不能来上课了” 《汉语学习》 第5期
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》 商务印书馆